

## 6-6 限られた財源を有効に活用する道づくり

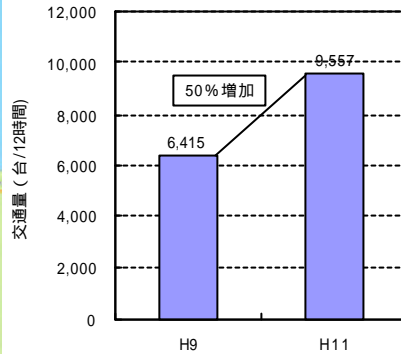
### 【道づくりのメニュー】

「選択」と「集中」による効率的な道路整備を推進する  
 あおもりの実状に適したローカルスタンダードの導入を検討する  
 既存道路資産を有効に活用するよう努める  
 道路の高度利用（TDM：交通需要マネジメント、ITS：高度道路交通システム）を推進する。

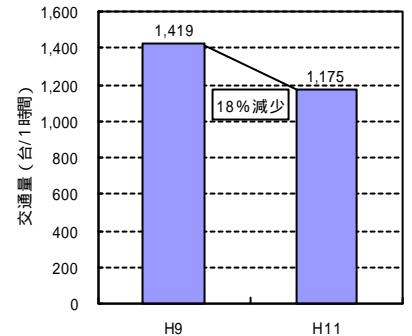
整備効果の高い事業の選択と、整備効果の早期発現を目指した集中的な投資を推進する



八戸環状線  
 交通量（12時間）の推移



国道340号  
 ピーク時間交通量の推移



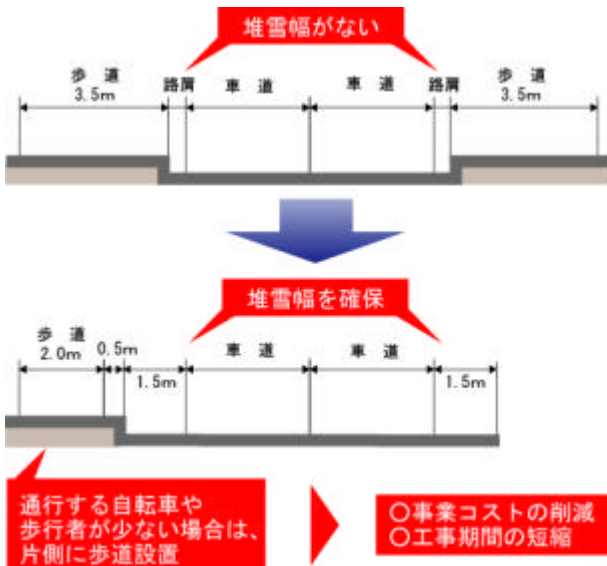
（上2図とも「道路交通センサス」より作成）

### 【整備効果】

八戸市中心部への導入路線の渋滞解消を図る。  
 交通ネットワーク形成に伴う定時性、定速性の確保を図る。  
 産業・物流拠点と高速道路インターチェンジとのアクセス向上及び東北新幹線八戸駅へのアクセス向上を図る。

事業のスピードアップ化、コストの縮減を図ることで、事業効果の早期発現を図る

一般道における  
 ローカルスタンダードの一例



地域高規格道路における  
 ローカルスタンダードの一例

